

特別講演 1

「慢性便秘の診療における新しい潮流」

横浜市立大学大学院医学系研究科 肝胆膵消化器病教室 主任教授

中島 淳 先生

慢性便秘症は、日常的によく見られる病気である一方、適切な治療が行われていないことが多い。診療ガイドラインもいまだにないが、日本消化器病学会の附置研究会で慢性便秘症に関する診療ガイドラインが間もなく作成される。

器質的疾患等を除き、慢性便秘症は大きく分けて▽結腸通過時間正常型▽結腸通過時間遅延型▽便排泄障害型—の三つに分類される。従来は、弛緩性便秘や痙攣性便秘、直腸性便秘という分類が主になされていたが、レントゲンや CT を行っても区別できないことなどから、現在では欧米でも同分類法は使用しておらず、日本でも今後は結腸通過時間と便排泄障害の有無による分類としていくべきである。

治療薬としては、酸化マグネシウムやセンノサイド、漢方薬などが用いられてきたが、新たな慢性便秘症の治療薬として、「アミティーザカプセル」（一般名＝ルビプロストン）が承認され、平成 24 年 11 月より発売されている。今回治療の基本的戦略と使用症例に関して解説を行いたい。